

■まち育て検討部会・景観検討部会報告

1. 今年度の開催経緯

1) まち育て検討部会・景観検討部会の開催

① 第4回まち育て検討部会（平成23年12月8日）

事務局から以下の2点を中心に議論することを要請し、了解を得た。

- ・昨年度から検討してきた「国立ツアー」の具体化
 - ・高架下施設の機能等（南北通路の東側から3・4・10号線の間配置される約300㎡を対象）
- また、分科会を設置して検討を進めることを確認した。
- ・検討部会メンバーを2グループに分け、国立ツアー分科会、高架下施設分科会を設置
 - ・分科会は概ね2週間ごとに開催することを確認

② 第5回まち育て検討部会・第1回景観検討部会（平成24年2月2日）

まち育て検討部会と景観検討部会の共同開催とした。

- ・まち育て検討部会については、分科会から引き続き継続的な検討を実施
- ・景観検討部会については、今後の部会の進め方等について確認

2) まち育て検討部会分科会の開催（平成23年12月21日、平成24年1月11日、1月25日、2月8日）

① 国立ツアー分科会

- ・今年度は、検討部会メンバーを中心にプレツアーを実施することを決定し、実行
- ・プレツアー後、参加者による意見交換会を実施し、高架下分科会の議論にフィードバック

② 高架下分科会

- ・高架下施設の検討の前提として、駅周辺のあり方も含めて議論
- ・国立市全体と駅周辺との関係、駅周辺での場の使われ方、高架下空間と周辺との関係等を議論

3) 国立プレツアーの実施（平成24年1月21日）

- ・雨天にも関わらず27名が参加（事務局含む）
- ・予定通りのスケジュールで、けが人等もなく無事終了

* P 2, 3を参照

2. まち育て検討部会で確認された方向性

* P 4以降を参照

国立フレッツア-MAP

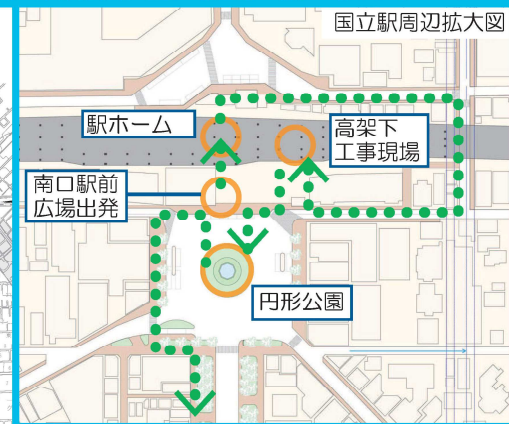
平成24年1月21日(土) 13時スタート!

本日のスケジュール

13:00	南口駅前広場集合、参加者確認、ツアー開始
13:05~	駅ホームへ
13:15~	北口駅前広場、ガード下から高架下工事現場へ
13:50~	円形公園
14:05~	大学通りを通り一橋大学へ
14:20~	一橋大学・兼松講堂等
14:50~	バスでママ下湧水に移動
15:10~	ママ下湧水・ハケの道から古民家へ (自由見学、各自トイレタイム)
15:40~	古民家で農家の方からお話しを伺う (佐藤さんご協力ありがとうございます)
16:10~	バスで旧国立駅舎保管庫へ移動
16:20~	旧国立駅舎保管庫見学 国立市からお話しを伺う
16:35~	バスで南口駅前広場へ移動
17:00~	意見交換会(商協ビル)
17:45~	ツアー終了(お疲れ様でした)
18:00~	懇親会(希望者)

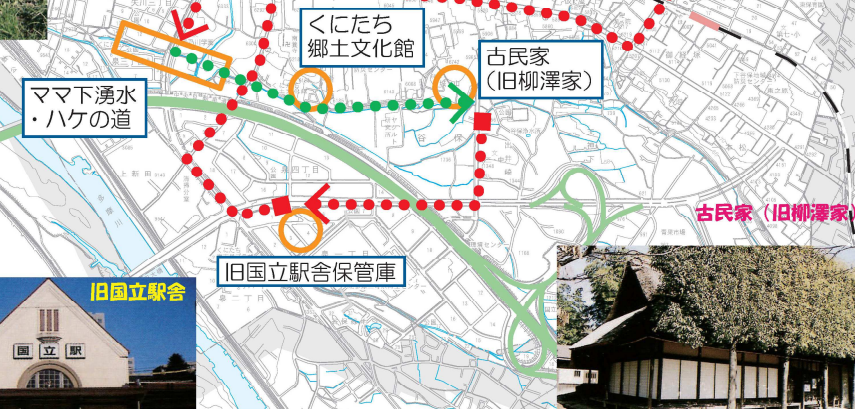
見所①【円形公園】

通常は入れない場所です。駅、大学通り、富士見通り、旭通りをしっかりと眺めましょう。



見所③【ママ下湧水】

市内に3つあるうち、最も多摩川に近い青柳段丘。段丘崖を地方名で「まま」、「はけ」と呼び、湧き出る地下水を「ママ下湧水」と呼んでいます。かつては豊富な湧水があったため、わさび田が10箇所ほどありました。



見所⑤【旧国立駅舎】

国立市指定有形文化財・建物。
大正15年(1926年)の国立駅開業当時は平均乗客数100人/日前後でした。旧駅舎は当時の建築様式の特徴を持ち、三角屋根の平屋にロマネスク風の半円窓が付けられています。大正期の木造駅舎としては都内では原宿駅に次いで2番目に古いものです。



見所④【古民家(旧柳澤家)】

国立市指定有形民俗文化財。
江戸時代後期に建てられたと推定される青柳の旧柳澤家住宅を移築復元したものです。何度か改築された跡が見られますが、建築当初の姿に復元しています。

見所②【一橋大学】

学園都市構想を念頭に国立開発計画を進めていた箱根土地株式会社、商科大学学長等の働きかけがある中で、大学の国立移転が決定されました。昭和2年に落成式が行われた兼松講堂を代表にロマネスク様式を基調とする建物群が当時の面影を残しています。



■ プレツァー当日（1月21日）の様様

国立駅下りホーム



国立駅下りホームから見た円形公園



北口商店街



ママ下湧水公園



一橋大学兼松講堂



円形公園から見た駅舎



古民家で農業者のお話を聞く



旧駅舎保管庫



意見交換会



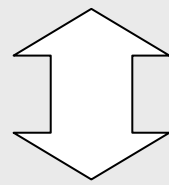
I. 国立駅周辺をどのような場として考えていくか

【国立市全体を見渡すと・・・】

市内の回遊性を生み出すことが大事

- ・北部と南部、異なる性格の街をつなぐ
- ・東西をつなぐ（中央線、南武線、甲州街道、多摩川）

～南北・東西のつながりを持つことで、回遊する魅力を高める～



市全体と駅周辺の結びつきを意識したまちづくり、場の創造が大事

【駅周辺がめざす街の姿、場は・・・】

ホスピタリティあふれるもう一つの“くにたち”

- ・市民の生活拠点、通勤・通学の出入口
- ・桜の時期は多くの人々が来るけど、それ以外の時期にも来てほしい。

～市民と来訪者が出会う街、場を目指す～

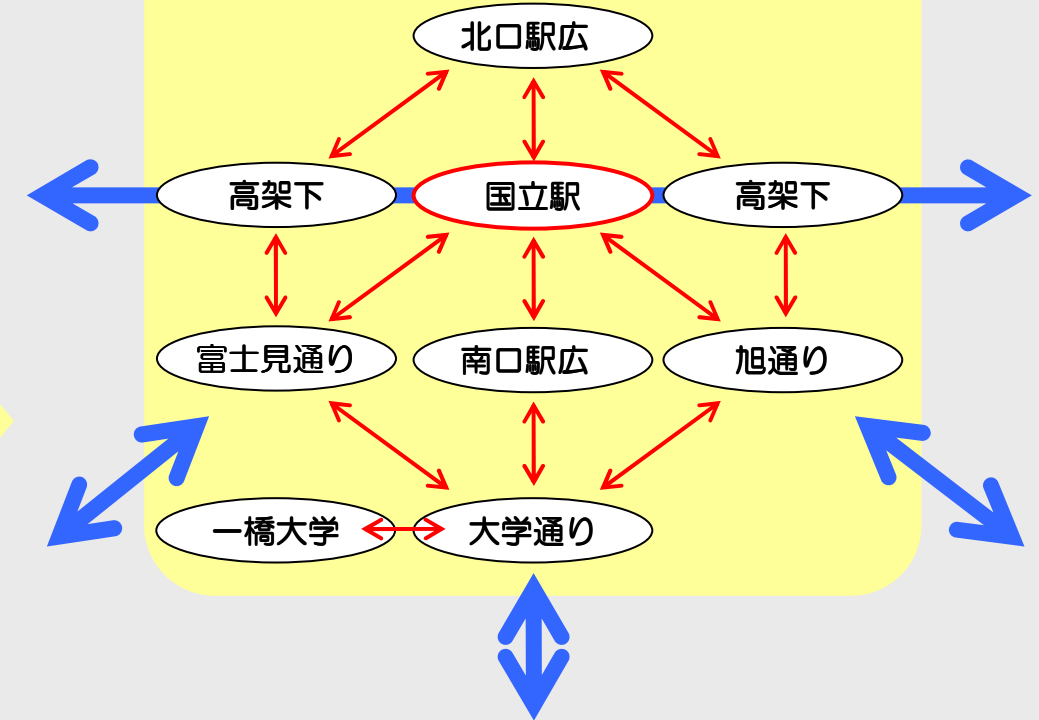
【大きな回遊（市内）と小さな回遊（駅周辺）を生み、つなぐには・・・】

これまでに考えてきた「人をつなぐ、時間をつなぐ、南部と北部をつなぐ」をさらに発展させて、国立らしさを表現する。

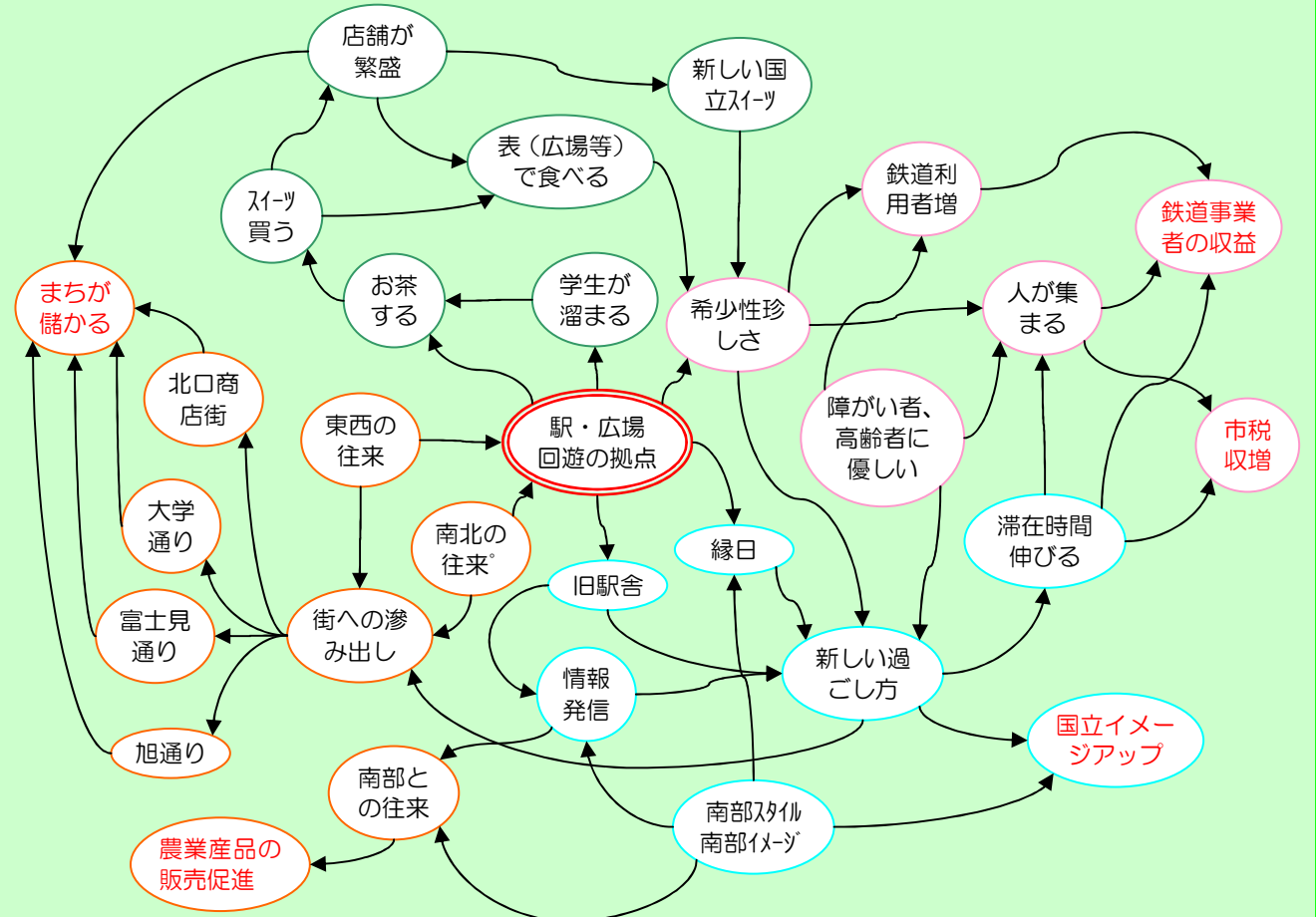
- 人をつなぐ
- 暮らしをつなぐ
- まちをつなぐ
- 地域をつなぐ
- 歴史をつなぐ

様々な観点から回遊性や駅周辺のあり方を考えてみる。

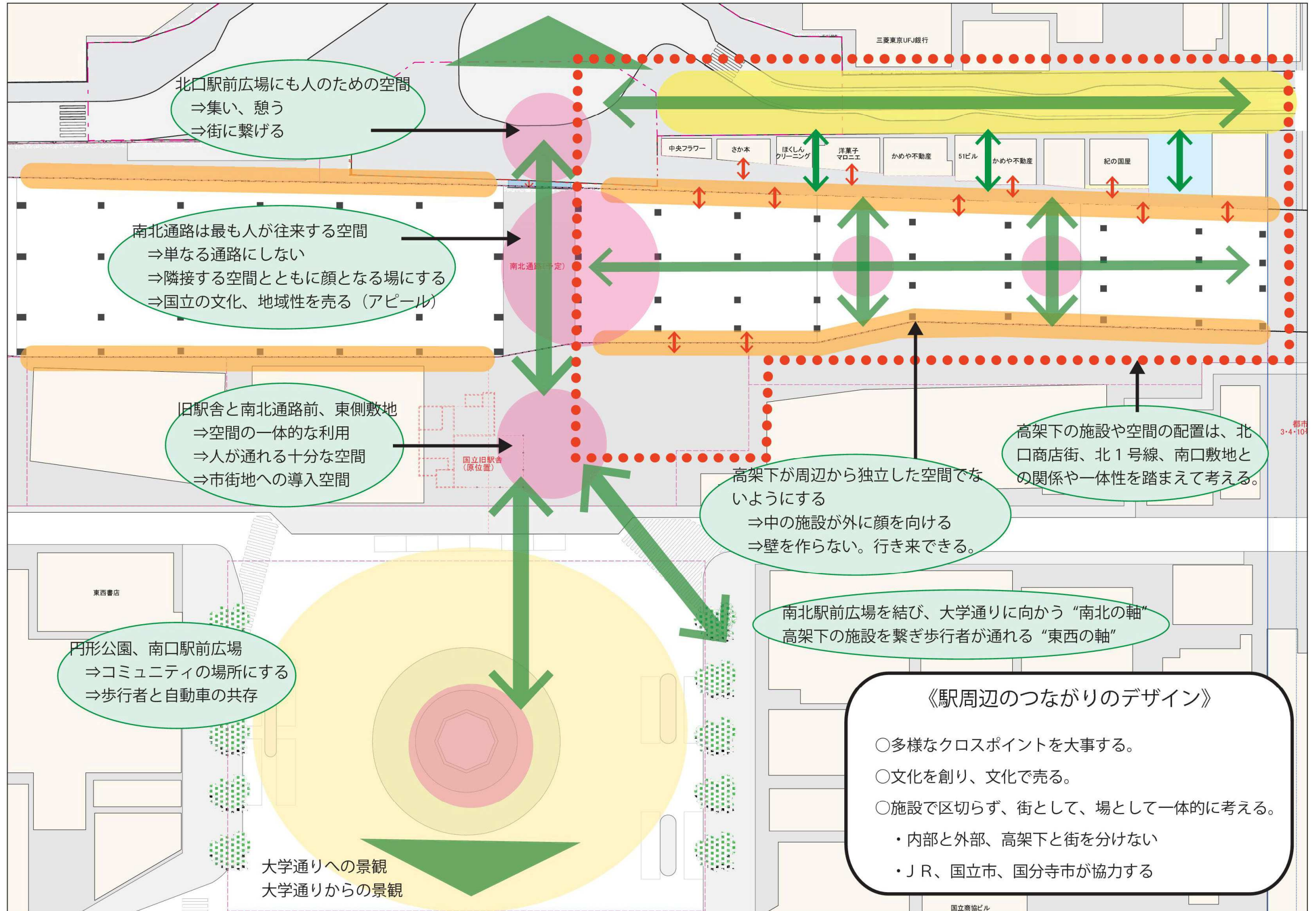
市内の回遊性と駅周辺の回遊性をつなぐ



様々な場や出来事が関連し、みんなが“Win-Win”の関係を作りたい！



II. 国立駅周辺における場づくりに向けて



Ⅲ. 駅周辺に配置する機能としてどのようなものが考えられるか（駅近くの高架下をイメージして）

